

2018
11月10日
発行号

かんなおと 菅直人の市民政治レポート

編集発行：菅直人を応援する会 / 〒180-0006 武蔵野市中町1-2-9 サンローゼ武蔵野302 Tel: 0422-55-7010



立憲パートナーズ 進む!

- 来夏の参院選は「原発ゼロ」が争点
- 結党1年を迎えて／主人公の“パートナーズ”大集合!

立憲パートナーズが、誕生一年を迎え 更に前進をすすめています!

昨年10月の突然の解散総選挙の際に、国民の声に推されて立憲民主党が誕生し、一年余りが経過しました。立憲民主党は政治家が話し合って生まれた政党ではなく、「枝野立て」という国民の声に推されて生まれた初めての政党です。

この一年はその結党の原点を忘れずに、立憲民主党をいかにして草の根に根差した本物の市民政党に育て上げるかという試行錯誤の連続でした。苦労も大きかったのですが、もともと市民運動の出身で草の根からの政治をめざしてきた私にとっては、市民政治の原点に立ち返ることができた楽しい一年でもありました。

パートナーズと共に政策立案する

従来のように、国会議員が中心となって議論した結論をトップダウンで国民に訴えるのではなく、立憲民主党にパートナーとして参加いただいた方たちと意見交換する中から結論を出す、新たな市民参加型の政党をめざしてきました。その最初の試みは「原発ゼロ基本法案」づくり。まず法案の骨子を熱心に取り組んできた議員で立案し、その法案骨子を公開しました。そして全国各地で20回にわたるタウン・ミーティングを開いて、合わせて約2000名以上の方と話し合いを持ちました。その中には小泉元総理が顧問の「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」との会合も含まれています。このような市民参加の話し合いから出てきた意見を盛り込んで作成した「原発ゼロ基本法案」を先の国会では立憲民主党など野党4党で衆議院に提出しました。

いろいろな課題を抱えている一人一人の国民自身が広く政党の政策議論に参加し、そこで生まれた政策の実

現のために力も出し合う、そうしたボトムアップ型の政党を目指すことが「パートナーズ」制度のねらいです。

枝野代表はアメリカ大統領選予備選挙で若者から大きな支持を集めたサンダース上院議員と会談し、「若者の学費問題をしっかり受け止めたことが支持につながった」と聞いたそうです。日本でも大学生の半数以上が卒業時に奨学金という名の相当の借金を背負って卒業しなくてはならないのが現状です。こうしたいろいろな課題を抱えた現場から多くの意見を出してもらい、その解決のための政策を共に立案していきます。

パートナーズと共に選挙に取り組む

私は、今後は政策立案だけでなく、選挙にも一緒に取り組むパートナーズ制度に育って欲しいと考えています。選挙にどういう形で実務的に参加できるのか・・・例えば選挙の際の公営掲示板へのポスター貼りもそのひとつ。1976年のロッキード選挙に最初に立候補したとき、私はどの政党にも属しておらず、労組からの推薦も受けていませんでした。選挙区の公営掲示板にポスターを貼るのは大仕事で、市民運動や学生時代の仲間、更には私が弁理士であるご縁で弁理士の方々にも協力を得て、何とか最初の2日間で全て貼ることができました。立候補の初日にポスターが貼れないようでは「泡沫候補」と見られかねないので重要なのです。

選挙というと大変そうですが、ある意味では面白い活動で、新しい仲間ができたり人生の楽しみに出会うこともあるというのが私の実感です。若い方だけでなく、人生100年時代のシルバー世代も元気な間は仲間と一緒に活動を楽しんでいただきたい。すでに多くの方にパートナーズ登録をいただいておりますが、さらに多くの方にパートナーズの一員になっていただき、自分に向けた活動に参加してもらいたいと思います。

臨時国会で「原発ゼロ基本法案」の審議を

10月24日、臨時国会がスタートし、原子力問題調査特別委員会に加えて、経済産業委員会に所属することになりました。経産委は原発や再エネを所管する経済産業省の問題を取り扱う委員会、所属するのは初めてです。先の国会で立憲など野党4党が共同提案した「原発ゼロ基本法案」は経産委にかかっており、継続審議になっています。先の国会最後の1か月、他の案件がないにも関わらず与党の妨害で「原発ゼロ基本法案」の審議が開始できませんでした。今国会では「原発ゼロ基本法案」の成立を望む多くの原発反対グループと連携し、与党の妨害をはねのけて実質審議にこぎつけたいと考えています。

「原発ゼロ」に賛同する議員を 国政・地方選挙で増やそう

立憲民主党は現在、国会では衆院会派58名と参院会派24名で、ともに野党第一党ですが、今後さらに参加する国会議員は増えると思います。枝野代表も私も、我が党の考え方に共感し、「原発ゼロ政策に賛成」を明言できるなら、議員個人の責任での参加は歓迎します。しかし民主党時代の反省から、政策をあいまいにして大きな議員の塊をつくろうとする“永田町の論理”を優先した合流理論には組しません。つまり「原発ゼロ基本法案」に賛同しない政党との丸ごとの合流は考えられません。

安倍政権を倒し、政権交代を実現するためには来春の統一地方選と続く夏の参院選で、立憲民主党が躍進することが必要です。参院選で、立憲民主党は1人区では「原発ゼロ」の野党統一候補の擁立をめざし、複数区では立憲民主党として公認候補の擁立をめざします。また比例区では、働き方改革を掲げた労働運動、生活に関わる政策テーマを掲げた市民運動などの各分野から、できるだけ半数近く女性の候補を擁立すべきと考えます。

連合が比例区で立憲民主党と国民民主党に分かれて戦う最大の理由は「原発ゼロ」に賛成か反対かです。国民民主党で戦う労組でも、電力と原発メーカー関係労組を除けば「原発ゼロ」に抵抗感はありません。連合は、原発政策は国民の声に従って政党に判断を任せ、「原発をゼロにしても関係者の雇用は守る」ことを政党に約束させれば、比例区での分裂は解消できるはずで

す。これからの一年が勝負の時です。立憲民主党の最高顧問として、各地の立憲民主党の立ち上げや各種選挙の底支えをすることが、私の使命と受け止めています。

スタッフ募集

来年の統一地方選と参院選を支援するため、私の事務所でも若干名のスタッフを募集しています。政治に関心を持ち、立憲民主党を応援したいと思う、意欲と体力がある方を希望。一般的なパソコン業務、車の運転ができる方。その他、勤務形態、給与等要相談。右記へ履歴書の送付を。▶〒180-0006 武蔵野市中町1-2-9 サンローゼ武蔵野 302 菅直人事務所

来夏の参院選は「原発ゼロ」が争点 複数区には必ず公認候補を擁立します



立憲民主党の菅直人元首相が23日来朝し、水戸市内で講演、党の理念や政策を語った。同党に興味を持つ地方議員らが企画し招いた。

菅氏は同党の理念に触れ、「国民の声に押されて誕生した、これまでと性質の異なる政党」と強調。今後の党勢拡大に向け、国民第一の考えを原点とし、「永田町的な再編で大きくなるのではなく、国民の声に呼応する新しい草の根の参加型政党をつくり上げることができるかが鍵」と述べた。来夏の参院選に関しては、「大事な選挙になるが、茨城は全国的にも難しい地区の一つ」と指摘した上で、「枝野代表は複数区には必ず公認候補を出す考えでいる。いかに勝てる候補を確保できるか。難しい問題」と述べるとして締めくく

2018・8・24 茨城新聞

比例区は「1000人委員会」参加で支援を

来年の参院選を原発の是非を最大の争点にし、原発ゼロを実現する大きな一歩にしたいと考えます。

9月30日、結党から1年の党大会である「立憲フェス2018」で、次期参院選の公認候補者予定者を紹介しました。その内のひとり、おしどり マコさん(新人・芸人、記者)は、3.11直後から福島原発事故に対する取材活動を続け、これまで東電の記者会見に500回以上出席し、その結果を公表してきました。現地や当事者の声を下敷きにした質問や問題点の指摘は、一般の記者がとてと及ばない的確な内容で、専門家からも高い評価を受けています。2016年には第22回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞。

参院比例区では、過去の例では個人名を20万票確保できれば当選確実となります。つまり1000人の積極的な支援者が「おしどりマコ」と書いてもらえる人を200人ずつ確保すれば、マコさんは国会で「原発ゼロ」に向けて活躍できるのです。あなたもぜひ「1000人委員会」に参加して、積極的支援者のお一人となってください。



おしどりマコさん

Activity Report

活動報告



[2018年8月~10月のピックアップ]

- 08.01 八朔相撲観戦@大國魂神社
- 08.08 日中韓囲碁連盟の囲碁交流に参加@韓国ソウル
- 08.13 ニコ生「70歳以上の国会議員が日本の未来を語る」に出演
- 08.15 全国戦没者追悼式に参列
- 08.23 立憲民主党懇談会@水戸市
- 08.27, 28 立憲全議員合宿@新潟
- 08.30 立憲都連パートナーズ集会
- 09.02 市民と立憲民主党との対話集会 in 山口
- 09.06 東海第二原発・東海再処理工場視察
- 09.07 ふらっとカフェ@武蔵野
- 09.10 福島第一原発・楢葉遠隔技術開発センター視察(ゼロの会)
- 09.15 府中市民連合・対話集会
- 09.23 2018「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井
- 09.30 立憲フェス(党大会)
- 10.06 府中平和まつり前夜祭
- 10.11 岩手県遠野市にてバイオマス施設など視察
- 10.17 IHI 海流発電実証試験機「かいりゅう」視察
- 10.21 みんなで創る立憲静岡主催：統一地方選候補者激励会
- 10.22 虎希の会/「脱原発宣言」出版を祝して
- 10.24 臨時国会召集

立憲民主党エネルギー調査会

東海第二原発は経済的にも成り立たず



9月6日、立憲民主党エネルギー調査会の一員として、東海第二原発と東海再処理工場を視察しました。

東海第二原発は40年間と定められた稼働期間が残りわずかですが、原発は大規模な安全対策をしてさらに20年の稼働をめざしています。しかし、安全性に問題があるだけでなく、延長が認められても再稼働の条件となる安全対策費が約1800億円、テロ対策費が1000億円程度かかる見通しで、経済的にも成り立つとは思えません。負担は東電などの電気料金に跳ね返りますから、予定通り停止を決め、廃炉に向かうべきと考えます。

また東海再処理工場も大半の部門は廃止措置中ですが、終了まで70年かかるとの説明。両原子力施設は極めて近接しており、福島原発事故のような原発事故が発生すれば、近隣の原子

力施設は避難区域に含まれる可能性が高いのに、事故の連鎖に対する対応策はあまり考えていないようでした。

10月26日、原電と東電の担当者呼んで現状を聞きました。「安全対策工事は近隣6自治体の再稼働についての了解が得られてから始めるのか」という質問に、原電は「一部はすでに始めている」との答弁。膨大な安全対策工事費は東電の支援をあてにしていると言われることについて、東電はあくまで採算に合う場合の投資の是非として考えているという答弁でした。近隣自治体の反対に関し、原電支援が無駄な投資になる可能性も含めて考慮しているようです。

結局、原電は安全対策費やテロ対策費などの費用を含む採算性については、具体的な説明をしませんでした。東電に対して福島原発事故により避難を続けている人たちが救済を求めている中、原電に膨大な財政支援することが理解されるかという意見も出席議員から出ました。

茨城県は日本初の原発建設地で、東海第二原発の稼働の是非が全国的に注目されています。12月9日投票の県議選で、2人の立憲民主党公認候補の勝利が「原発ゼロ」への試金石です。

視察から見てきた課題と未来

エネルギーの未来を考える



立憲民主党の仲間と共に、国内の再生エネルギー施設の視察を重ねています。

10月11日、岩手県遠野市でバイオマス施設を視察。遠野市は4年前に「新エネルギービジョン」を策定し、再生可能エネルギーの導入計画を進めています。遠野市役所は、東日本大震災で壊れた市庁舎を再建するにあたり、市内の豊富な森林資源を利用した木質バイオマスによる冷暖房施設を導入して注目されています。

日本は国土の7割近くが森林で、森林資源が豊富であるにもかかわらず、建設用の木材も多くは外国から輸入。木質バイオマスのエネルギー利用も欧米に比べて極めてわずかです。

民主党政権では路網の整備など林業の再生政策を進めましたが、まだまだ不十分。国産材による建築と並んで、廃棄されてきた木質バイオマスの工

Activity Report

活動報告



ネルギー活用が進めば、遠野市のような山村地域の自治体にも資金が還流し、経済の活性化につながります。

10月17日には「海流発電」の視察にIHI(石川島播磨)の横浜事業所を訪れました。黒潮などの海流の流れを利用して発電するというものです。総理を退任してから原発に代わりうる各種の再生エネルギー装置を世界中で見て回りましたが、海流を利用したものは初めてでした。

左右対になった2枚のプロペラが装着された装置を、海底のアンカーからケーブルで風揚げのように海面下50メートル付近に浮かせ、海流でプロペラを回して発電。実験運転に成功した試作機は100KWの発電能力を目標に開発されたものですが、将来は一機で2000KWの海流発電機を開発する予定だそうです。中型の風力発電量と同じで、経済的にも成り立つ可能性があります。海に囲まれている日本の利点を生かせる「海流発電」には、大きな可能性を感じました。

*

九州電力による太陽光発電抑制制が報道されましたが、九州管内でどうしても電力が余るのなら本州などへ供給すればいいはず。ヨーロッパは

各国の送電網がつながっており、国の間でも電力需給を調整しています。日本は一つの国でありながら、国内の送電網を九つの電力会社がばらばらに所有しているために需給調整が進まず、北海道の大停電も本州との間の送電網が不足していたために起きたと専門家は指摘しています。電力送電網を電力会社から切り離す「発送電の分離」を急ぐ必要があります。

いま、太陽光パネルなど、元来日本が得意としてきた再生技術の分野で、中国などが追い上げ追い越す例が増えていきます。風力発電も、日本では電力会社が送電網を開放しないために建設が遅れていますが、世界の風力発電量は今や世界の原発の発電量を超え、コストもどんどん下がっています。日本が遅れた最大の原因は、電力会社や自民党政府が原発に固執する余り、再生技術の開発に力を注がないからです。世界的流れとなっている再生へのエネルギー転換を日本はこれ以上遅らせてはなりません。

結党1年を迎えて / 主人公の“パートナーズ”大集合！

08.30立憲都連パートナーズ集会 @後楽園ホール

立憲民主党東京都連主催のパートナーズ集会が開かれ、ボクシングなど格闘技の会場として有名な後楽園ホールが、約1300人の立憲パートナーでいっぱいになりました。



「立憲民主党はあなたです」という枝野代表の呼びかけからスタートした立憲民主党にとって、パートナーは単なる支援者ではありません。「枝野立て」と声をあげ、立憲民主党を生み出した「主人公」です。この原点を大切に、草の根市民の中にどこまで根を張れるか、日本社会初の壮大な社会実験です。

09.30 立憲フェス(党大会)開催

立憲民主党の党大会にあたる「立憲フェス」は、従来の党大会とは全く異なり、参加者みんなが楽しみ、同時にテーマ別の議論にも参加できるお祭りの催しです。1500人の会場がパートナーズと議員で埋め尽くされました。



立憲ミニトークでは、3つのテーマで党所属の国会議員や地方議員などが党の活動やこれからについて語り、対話型ワークショップでは議論を戦わせました。

参院比例選への出馬が決まったおしどりマコさんは「原発ゼロへ向けて」のトークセッションを主宰。お笑いLIVEでも音楽漫才で楽しませてくれました。飲食・フェスグッズ・著書販売も。

各地でミニパートナーズ集会も多数

パートナーズカフェ、立憲カフェ、市民ふらっと集会、パートナーズ広場・・・名称は様々ですが、パートナーズの声の聴き、共に考えていこうというミニ集会が各地で展開されています。議員とのカジュアルな交流やワークショップなど、形式も様々。

開催のお知らせはSNSが多いようですが、お近くでの開催に、ぜひ。



▲9月7日、武蔵野で、選挙など今後の立憲民主党の活動にパートナーズがどう関わるか話し合いました。

菅直人×岳真也
カンカンガクガク対談

脱原発宣言



菅直人 岳真也

菅さんと私に共通する究極の「一点」は自明。「原発ゼロの社会を目指す」。ほかには何もありません。がくしんや

「脱原発宣言」は決して楽観的、空想的宣言ではありません。きわめて現実的かつ実現可能な宣言です。

歴史作家でもある岳真也さんと菅直人の共著「脱原発宣言：カンカンガクガク対談」が出版されました。岳さんとは、二人が古稀になったのを期に「虎希の会」を旗揚げ。今回は私が総理として直面した福島原発事故やその後の自然エネルギーに関することについて、岳さんが遠慮会釈なく私に質問し、それを本にまとめました。

発行：みやび出版 TEL. 044-855-5723
価格：1500円+税

